『金瓶梅詞話』における語気助詞「也」

孟　　子　　敏

松　山　大　学
言語文化研究　第28巻第１号（抜刷）
2008年９月
Matsuyama University
Studies in Language and Literature
Vol. 28 No. 1 September 2008

『金瓶梅詞話』における語気助詞「也」

孟　子　敏

概要：近代中国語における語気助詞「也」について、伝事語気文のみを見るならば、「也」を伴う伝事語気センテンスは、唐以降、明に至るまで、「也」は完全な連続性を保っており、いずれも新たな事実を伝えるために語気を強めているものである。

『金瓶梅詞話』以前、「也」はかなり単純に継承された様相を示す。『金瓶梅詞話』以降、「也」の変遷姿勢は逆に複雑な様相をとるようになる。文献上の資料から見る場合、現在では一般に近代白話の「也」字(「也」字であって「也」という語ではない)は清代の後消滅したと言われる。しかし、実際にはそうではない。文字のレベルで言うならば、「也」の変遷は2つの道を辿ったのである。1つは、一部の方言において消滅したが、もう1つは、一部の方言においては使用され続けているということである消滅した道は、北京話に限定されよう。

本論文において、筆者がすでに提起した「非交流文」と「交流文」(孟子敏 2005)という2つの概念を引き続き使用し、主に『金瓶梅詞話』における『也』およびその「也」の現代蘭陵方言においての変遷を考察した。

0 はじめに

0.1 『金瓶梅詞話』について

『金瓶梅詞話』は、蘭陵笑笑生の著であり、全10巻で、全100回から構成されており、全字数は80万余である。『金瓶梅詞話』は16世紀末に成立し、中国文学史上、重要な転換点をなす写実小説として非常に有名である。また、写実主義の小説として非常に優れているばかりでなく、当時の口語形式の口頭語の実態にきわめて近いものを伝える「方言調査報告書」とも言えるものである。

『金瓶梅詞話』は、白話小説の伝統的言語形式を打ち破り、一般庶民の日常における言語生活の実態に徹底的に則して書かれている。したがって、言語描写の面から言うならば、『金瓶梅詞話』は、中国小説史上、革命的であると言って全く差し支えないと思う。

この小説は山東方言を基礎として書かれており、16世紀末から17世紀初期にかけての山東南部方言を記録している。その記録によって我々に向かって発信されるものは音声、語彙、文法の各情報に亘っている。1つの例を見てみよう。

（惠蓮）哭了一回，取一條長手巾，拴在臥房裡揝上，悬梁自縊。不想來昭妻一丈青住房正與他相連，說後來聽見他屋里哭了一回，不見動靜，半日只聽喘息之聲，扣房門叫他不應，慌了手腳。教小廝平安兒撬開窓戶，拴進去，見婦人穿着隨身衣服，在門椎上正吊得好。（026/11a/06 ～ 10*）

この例に見られる「拴進去」の意味は何であろうか。「拴」の意味は「つなぐ、縛り付ける」である。「拴進去」はかなり難解であるため、現代の研究者は安易にその「拴」を改めてしまうのである。たとえば、台湾中央研究院近代漢語標記語料庫では、「拴」は「竄」に直されている。梅節(1993)は「拴」を「鑽」に直している。例を見てみよう。

慌了手腳，教小廝平安兒，撬開窗戶，竄進去。見婦人穿著隨身衣服，在門楹下正吊得好。

慌了手腳，教小廝平安兒撬開窗戶鑽進去。見婦人穿着隨身衣服，在門楹下正吊得好。

このような直し方は相当不謹慎である。「拴進去」は、山東蘭陵方言(付録を参照)によれば、容易に氷解する。実際は、「拴進去」は「翻進去」(「登って入っていく」)というフレーズを表現していて、「拴」は「翻」の当て字である。「拴」は通常shuānという発音で読み、「翻」は大体fānという発音で読む。なぜ「拴」が用いられ、「翻」を表記するのであろうか。以下にその点を述べてみよう。

---

* 026/11a/06は、『金瓶梅詞話』第26回目、第11ページ目の前半、第6行目」という意味を表す。前半はaで表示、後半はbで表示する。

中古の「知、庄、章」という三組の声母は、韻母が合口の場合、現代の北京方言ではzh、ch、shという発音に変わったが、蘭陵方言では、pf、pf‘、fというような発音に変わったのである。1つの例を見てみよう。

	北京方言	蘭陵方言
磚	zhuān	pfān
穿	chuān	pf‘ān
拴	shuān	fān

これによって、「拴」と「翻」は同じ発音になってしまう。そのため、著録者は聞きながら、「拴」を用いることによって「翻」を記録したのである

本論文では大安影印本『金瓶梅詞話』を底本として利用する。この影印本は日光山輪王寺慈眼堂蔵本と徳山毛利家棲息堂に基づいており、ごく一部分は北京図書館蔵本に拠っている。日光山輪王寺慈眼堂蔵本・徳山毛利家棲息堂と北京図書館蔵本という三種は現存する『金瓶梅詞話』系統の版本で完全に揃っているものである。中国の北京図書館本(現在台湾故宮博物院に収蔵されている)は1932年に中国山西省介休県で発現されたもので、現在にいたるまで最も早く発見された『金瓶梅詞話』系統の版本である。

日本の日光山輪王寺慈眼堂本は、1941年に栃木县日光山轮王寺慈眼堂で発見された。

徳山毛利家棲息堂本は、1962年に山口县徳山毛利家栖息堂で発見された。

日光山輪王寺慈眼堂本と北京図書館本は同版である。だが、北京図書館本は人為的書き換えの箇所がある。徳山毛利家棲息堂本はこの2つと異なる箇所がある。

0.2「語気助詞」について

語気助詞は、現在もっともよく用いられているのは、語気詞という呼び方である。語気詞について劉勲寧(1990)は、優れた分析を行っており、「語気詞は漢語においてとりわけ重要なものである。その使用は、対話に参加する双方の関

係および発話者の関係する事物に対する態度などに深く関わる。」語気詞に対する通常よく見られる説明は語気を表す語であると言うものである。疑問を表すものとしては、「嗎、呢、吧、啊」などがあり、使役を表すものとしては、「吧、啊」などがあり、平叙を表すものとしては、「了、啊、呢」などがあると言うものである。しかし、いわゆる語気詞は本質的に語気を表すものではなく、本論文で用いられる「語気助詞」は、伝事、伝疑および伝問の語気を強化するのである。それは話者自身の主観的態度の強化を意味するのである。これは語気助詞の根本的機能であると考える(孟子敏 2005)。

本論文において、筆者がすでに提起した「非交流文」と「交流文」(孟子敏 2005)という2つの概念を引き続き使用することとする。また、「交流文」に対して分類した「伝事語気」・「伝問語気」・「伝疑語気」という語気の骨組みは本論文でも有効である。

語気助詞は伝事語気文・伝問語気文および伝疑語気文で使われ、すなわち、語気助詞は交流文を条件として用いられるわけである(孟子敏 2005)。交流文には2つのケースがある。

1つは、実際に対話が行われている交流文であり、コミュニケーションが発話者と聴き手との間で展開されているものである。例えば、

(1)(等孤云了)(做接了衫兒看了)婆婆，喒那壁衫兒那裏？（等卜云了)(做將兩半衫兒比了，悲云)婆婆，我省得，喒張孝友孩兒被陳虎那廝虧圖了。喒媳婦兒去時，有三個月身小，經今去了十七年**也**！這官人道他姓陳，十七歳**也**。眼見的陳虎那廝送了俺孩兒性命，把媳婦強嚇為妻也！（『相國寺公孫汗衫記雜劇』*）

(2)(媒)天色明了**也**。學士。你先往衙門中去。我投夫人跟前回話去**也**。(『溫太真玉鏡臺』)

(3)(卜)老兒。你吃下這湯去。怎生不好了**也**。(卜叫云)老兒**也**。你放精細著。

---

* 元雜劇について、台湾中央研究院漢典電子文献の『元刊雜劇三十種』、『關漢卿戯曲集』を参照した。

你札掙著些兒。(『感天動地竇娥冤』)

(4)李克用云：夫人。你不說我怎生知道。都是這兩個送了我那孩兒**也**。我說道五裂篾迭。我醉了**也**。他怎生將孩兒五裂了。把這兩個無徒拏到鄧家莊上殺壞了。剖腹剜心。與俺孩兒報了冤讎**也**。(『鄧夫人苦痛哭存孝』)

(5)劉夫人云：孩兒。你去邢州鎮守。阿媽醉了**也**。你且去咱。

李存孝云：阿者。當日與俺潞州天黨郡。如今信著康君立李存信。著俺去邢州去。阿者。怎生阿媽行再說一聲。可也好**也**。

劉夫人云：你阿媽醉了**也**。(『鄧夫人苦痛哭存孝』)

(6)那里去了。我關上這門。這早晚敢待來**也**。(李慶安上。做慌科。云)自家李慶安的便是。小姐約我赴期。不知是麽人將梅香殺了。我害慌**也**。家中見父親去。來到門首也。父親開門來。(李老兒云)孩兒來了**也**。我開開這門。(開門科。見云)孩兒也。你慌做是麽。(『王閏香夜月四春園』)

(7)(外旦上)周舍敢待來也。(周舍上見科)(外旦)周舍。你吃甚麽茶飯。(周怒云)好**也**。將紙筆來。寫與你一紙休書。你快走。(外旦接休書科云)我有甚麽不是。你休了我。(周)你還在這里。你快走。(外旦)你真個休了我**也**。(出門科)(云)我出的這門來。周舍**也**。你好痴**也**。趙盻兒姐姐。你好強也。我將著這休書。直至店肆中去。望姐姐去也。(『趙盼児風月救風塵』)

(8)(等卜云了)(做將兩半衫兒比了，悲云)婆婆，我省得，嗜張孝友孩兒被陳虎那廝虧圖了。嗜媳婦兒去時，有三個月身小，經今去了十七年**也**！這官人道他姓陳，十七歳**也**。眼見的陳虎那廝送了俺孩兒性命，把媳婦強嚇為妻**也**！(『相國寺公孫汗衫記雜劇』)

(9)衆畜道："苦**也**！俺們怎理会得？全仗老公公教導。"(『三遂平妖伝』)

もう1つは、実際に対話が行われている交流文ではなく、コミュニケ―ションは発話者と聴き手との間で行われておらず、発話者の独り言の形で語るものである。たとえば、例(10)の冒頭には王員外の独り言の形で、そのあとの「也」を使われるセリフはすべて裴炎の独り言である。もしくは発話者本人がまだ人

が知らない話題についてわざと勿体をつけた形でかたり、自ら答えるというものである。たとえば例(12)である。

(10)(裴炎下)(王員外云)裴炎去了**也**。著這廝惱了我這一場。無甚事。閉了解典庫。後堂中飲酒去來。

(王員外下)　(裴炎上。云)短刀拏在手。專等夜闌時。自家裴炎的便是。頗柰王員外無禮。一領綿團襖當便當。不當便罷。罵我做歇案的賊。我今夜務要殺了他一家兒。天色晚**也**。來到這後花園中。我跳過這墻去。(做跳墻科。云)阿。可綽我跳過這墻來。一所好花園**也**。我在這太湖石邊等候。看有甚麼人來。(梅香上。云)自家梅香的便是。俺家閏香姐姐著我將這一包袱金珠財寶送與李慶安去。來到這後花園中。等慶安來赴期時先與他。可怎生不見慶安來。慶安。赤。赤。赤。(裴炎云)一個婦人來**也**。我先殺了他。(做拏住梅香殺科。云)黄泉做鬼休怨我。(梅香死科)(裴炎云)我殺便殺了。……一包袱金珠財寶。罷。罷。罷。也勾了我的**也**。不殺王員外了。背著這包袱。跳過這墻去。還家中去**也**。(『王閏香夜月四春園』)

(11)(下)賽盧医云：可不悔気！剛剛討藥的這人，就是救那婆子的。我今日與了他這服毒藥去了，以后事発，越越要連累我；趁早児关上薬铺，到涿州卖老鼠薬去**也**。(『感天動地竇娥冤』)

(12)忽一彪軍撞至面前，大叫：「魏延在此！」拈弓搭箭，射中曹操。操翻身落馬。延棄弓綽刀，驟馬上山坡来殺曹操。刺斜里閃出一将，大叫：「休傷吾主！」視之，乃龐德**也**。(『三国演義』)

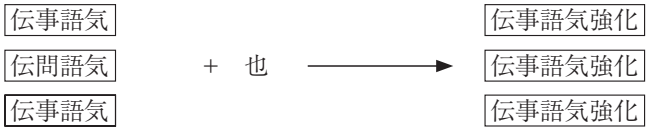
0.3 語気助詞「也」について

0.3.1 語気助詞「也」の意味について

近代漢語における「也」の意味については、多くの研究者の見解は大同小異である。太田辰夫は、「也」を動作もしくは状態の実現を表し、動作の完了を表

すと見(太田辰夫 1958)、また、称呼の後にも置かれ、疑問の語気を強調したる付け加えたりする場合に用いられるとも見ている(太田辰夫 1958)。羅驥は、さらに或る事実がすでに過去のこと、もしくは完成したこととなっていることや、或る事実が間もなく発生することをも表すと見(羅驥 1994)、孫錫信も、すでに変動している、もしくは「将然」であることをも表すと見ている(孫錫信 1999)。

筆者は「也」の意味についてすでに考察したことがあるが、「也」は「已然」もしくは「将然」とは関係がないという結論を出しているのである。「也」の意味は語気を強化するという一点に集約することができる（孟子敏 2005;2007）。以下のように、図示することができよう。



本稿においては、この観點から、『金瓶梅詞話』における語気助詞「也」及び関連する「呀」に対して、分析を試みてみる。

0.3.2 語気助詞「也」の変遷について

伝事語気文のみを見るならば、「也」を伴う伝事語気センテンスは、唐以降、明に至るまで、「也」は完全な連続性を保っており、いずれも新たな事実を伝えるために語気を強めているものである。

『金瓶梅詞話』以前、「也」はかなり単純に継承された様相を示す。『金瓶梅詞話』以降、「也」の変遷姿勢は逆に複雑な様相をとるようになる。文献上の資料から見る場合、現在では一般に近代白話の「也」字(「也」字であって「也」という語ではない)は清代の後消滅したと言われる。しかし、実際にはそうではない。文字のレベルで言うならば、「也」の変遷は2つの道を辿ったのである。1つは、一部の方言において消滅したが、もう1つは、一部の方言においては使

用され続けているということである(孟子敏 2003)。消滅した道は、北京話に限定されよう。北京話ではほとんど目にすることができない。白話での「也」の意味は、完全に「呀」もしくは「啊」によって取って代わられている。

『金瓶梅詞話』で、語気助詞としての「也」は310回用いられている。その「也」は漢語史上の連続性を呈している。注意すべきこととして、“娘洗澡也不洗”、“你常拿封皮封着他也怎的”のようなセンテンスにある「也」は、語気助詞とみなすことができることがある（劉勲寧 1985）。実際には、このようなセンテンスは2つの文から構文されるのである。『金瓶梅詞話』における「也」の使用情況について、以下のような考察を行なう。

1 交流文における「也」

1.1 「也」は発話者と聞き手の間の交流文で出現する

『金瓶梅詞話』におけるそのような交流文とは登場人物間の会話という形である。「也」を使うセンテンスは大部分このような交流文である。例を見てみよう。

(13) 便拜説道：“壯士，你是人**也**神**也**！端的吃了總律心豹子肝獅子腿！”(001/07a/08 ～ 09)

(14) 武松道：“深謝嫂嫂！”婦人又道：“莫不別處有嬸嬸，可請來廝會**也**！”(001/14a/03 ～ 04)

(15) 西門慶道：“説不得小人先妻陳氏雖是微末出身，却倒百伶百俐，是件都替的小人。如今不幸他沒了，已過三年來**也**。”(003/11b/09 ～ 11)

(16) 叫道：“娘子，老身大胆。”那婦人從樓上應道：“奴却待來**也**！”(003/07b/03 ～ 04)

(17) 武大道：“却是好**也**，生受大嫂！”(005/07b/07 ～ 08)

(18) 玳安道：“六姨你休哭，俺爹怕不得也只在這兩日頭他生日待來**也**。你寫幾個字兒，等我替你稍去與俺爹瞧，看了必然就來。”(008/04a/04 ～ 06)

(19) 便問道：“你那日來家怎的不好**也**？”不荅應，又問：“你着了誰人惱，

你告我說！”(012/13a/06 ～ 08)

(20)這廝手把着脉，想起他魚來掛在簾鈎兒上，就忘記看脉，只顧且問：“嫂子你下邊有猫兒**也**沒有？”不想他男子漢在屋裡聽見了，走來採着毛，打了個臭死。(019/06a/03 ～ 05)

(21)狂的有甚些摺兒**也**，怎的？(023/09a/01 ～ 02)

(22)綉春道：“我娘害肚裡疼，屋裡才 歪着哩。便來**也**。”(030/06b/07 ～ 08)

(23)看他意何如，肯**也**不肯？(037/06a/02 ～ 03)

(24)李瓶兒走來，抱到懷中，一面哭起來，叫丫頭：“快請你爹去，你説孩子待斷氣**也**！”(059/14b/05 ～ 06)

(25)春梅作一夢，恍恍惚惚夢見金蓮雲髻蓬鬆，渾身是血，叫道：“龐大姐，我的好姐姐，奴死的好苦**也**！”(059/14b/05 ～ 06)

(26)月娘說道：“孟三姐你好狠**也**！你去了，撇的奴孤另另，獨自一個和誰做伴兒？”(091/09a/07 ～ 08)

特に指摘したいのは、『金瓶梅詞話』は鮮明な「説唱文学」としての特徴を持っており、語り手が使う叙述文と登場人物の会話文とが混じり合っている現象が常に見られるということである。たとえば、人称からするならば、語り手が人物や物語を叙述する際、第三人称を使わなければならない。しかし、『金瓶梅詞話』では第一人称を使うことがあるのである。表面的に見れば、語り手の叙述文であるはずなのであるが、実際には登場人物の会話文として用いられていたりするのである。そのために、語気助詞が使われる。このようなセンテンスは発話者と聞き手の間の交流文と見ることができる。例を見てみよう。

(27)來旺兒教老婆把銀兩收在箱中，我在街上尋夥計去**也**。(026/02b/06)

1.2「也」は非直接的な会話としての交流文で出現する

非直接会話文としての交流文は主に以下の三つのケースに分けられる。

① 発話者は自分で聞き手を想定して、その聞き手を交流対象をとなす。この場合、「也」が使われる。例を見てみよう。

(28)要祈保佑兒夫早早回心，弃却繁華，齊心家事。不拘妾等六人之中，早見嗣息，以爲終身之計，乃妾之夙願**也**！（021/01b/08 ～ 09）

(29)你做奴才一場，好衣服沒曾掙下一件在屋裡。今日只當把你遠離他鄉，筭的去了，坑的奴好苦**也**！（026/11a/03 ～ 04）

例(28)は、呉月娘は神仏を聞き手として、祈っている話である。例(29)は、宋惠蓮が自分の夫としての「来旺」を追放された情報を知った後、訴えている話であり、強い感情を表すため、「也」を使っている。

聴衆を聞き手として想定した場合、語り手は「也」を使うことができる。たとえば、例(30)では、語り手は「也」を使って、強い感情を表わしている。

(30)古人有詩一首，單悼這金蓮死的好苦**也**！（087/10a/08）

② 発話者の独り言の形の場合、「也」が使われる。例を見てみよう。

(31)武松大驚道：“阿呀！今番我死**也**！”（001/07a/05 ～ 06）

(32)普天世界，斷生了男子。何故將奴嫁與這樣個貨！每日牽着不走打着倒腿的，只是一味咻酒。着緊處都是錐扎也不動。奴端的那世裡悔氣，却嫁了他，是好苦**也**！（001/11b/04 ～ 06）

(33)心中暗忖道：“他有胡僧的法術，我有姑子的仙丹，想必有些好消息**也**！”（053/10a/09 ～ 10）

(34)經濟見那雨下得緊，説道：“好個不做美的天，他甫能教我對証話去，今日不想又下起雨來，好悶倦人**也**！”（083/02a/05 ～ 06）

③ 発話者は自分で人が知らない問題を出してから、自ら答える。この場合、「也」が使われ、話している内容を強調する。例を見てみよう。

(35)往往男子之名，都被婦人壞了者，爲何？皆由御之不得其道故**也**！（014/07b/06 ～ 07）

(36)那時宋時謂之搗子，今時俗呼爲光棍是**也**。（019/03b/01 ～ 02）

この2つの例文は発話者と聞き手の間の直接な交流ではない。例(36)では、“搗子”という言い方は、当時普通の言葉であったのではないので、語り手が説明を加える必要があり、「也」を使ってしまったわけである。

2 伝事語気文・伝問語気文および伝疑問語気文における「也」

2.1 伝事語気文における「也」

聴き手に向けて出来事、事柄などを伝達する場合、「也」を使って、伝事語気を強調する。

(37)只靠着我逐日出來供唱荅應這幾個相熟的老爹，好不辛苦**也**！(011/09a/04 ～ 05)

(38)他便立在角門首，半露嬌客(容)，說：“大官人少坐一時，他適纔有些小事出去了，便來**也**。”(013/01b/08 ～ 09)

(39)婦人道：“買賣不與道路為讐，只依奴，到家打發了再來**也**！往後日子多如柳葉兒哩。”(016/04a/09 ～ 11)

(40)這經濟老和尚不撞鍾——得不的一聲。于是潑步撩衣，向前說：“等我送二位娘。”先把潘金蓮裙子帶住，說道：“五娘站牢，兒子送**也**！”(025/02a/08 ～ 10)

(41)不知甚麼人對俺爹說了，教爹打我一頓。我如今尋姑夫問他要圈兒去**也**！(029/03a/01 ～ 02)

(42)一個後婚老婆，漢子不知見過了多少**也**！(030/08b/07 ～ 08)

(43)賊短命，誰要你撲，將人來聽見，敢待死**也**！(052/17b/01)

(44)學了昨的下半晚，眞要痛死人**也**！(054/14b/10 ～ 11)

2.2 伝問語気文における「也」

発話者が質問の対象について全く知るところがなく、聴き手に向かって疑問を呈して知ろうとする場合、「也」を使って、強い伝問語気を伝える。例を見てみよう。

(45)六月日頭沒打你門前過**也**怎的？大家的事你不出罷！(021/06a/06 ～ 07)

(46)你抱着執壺兒怎的不見了，敢屁股大吊了心了**也**怎的？(031/09a/07)

(47)春梅道：“達達起來了手，你又來理論俺每這奴才做甚麼**也**？玷辱了你這兩隻手。”(076/13b/11 ～ 14a/02)

例(45)、(46)の中にある「……也怎的」という形は、『金瓶梅詞話』で出現頻度が高い。実際には、この伝問語気文のような形を利用して反語を表しているのである。

2.3 伝疑語気文における「也」

発話者が質問内容についてすでに知るところはあるものの、いまだ確定できないでいて、聞き手に向かってその答えを引き出そうとする場合、「也」を使って、強い伝疑語気を伝える。例を見てみよう。

(48)王婆問道：“了**也**末？”那婦人道：“了便了了，只是我手脚軟了，安排不得。”(005/08b/08 ～ 09)

(49)月娘便問大姐：“陳姐夫也會看牌**也**不會？(018/08a/05 ～ 06)

(50)月娘道：“你且休閑說，請看這位娘子，敢待生養**也**？”(030/08a/09)

(51)西門慶道：“小兒病症大象怎的，有紙脉**也**沒有？”(053/12a/02 ～ 03)

(52)賊囚根子們別要說嘴，打夥兒替你爹做牽頭，勾引上了道兒，你每好畟躧狗尾兒。說的是**也**不是？(078/17b/07 ～ 09)

(53)且説你衙内今年多大年紀，原娶過妻小來没有，房中有人**也**無，姓甚名誰？(091/04b/11 ～ 05a/01)

3「也」を使うセンテンスの語用論的考察

3.1 正式な発話と非正式な発話とにおける「也$_1$」・「也$_2$」

北京方言を基礎として文康*が書いた『児女英雄伝』では、近代漢語における「也」の機能や意味はすべて「呀」もしくは「啊」という語気助詞に取って代わ

*文康、生卒年不詳、恐らく清の同治(1862 ～ 1874)初年に歿。

られてしまった。「也」という助詞を使うケースもあるが、必ず文語的文体に限られる。「也」の用例はいずれも文語的文体であるか、あるいは直接文言文を引用しているものであるかである。例を見てみよう。

(54)天尊道:“……這便是今日繡旗齊展,宝鏡高懸,発落這樁公案的本意**也**。”

(55)那先生道:“‘尋常’者,對‘英雄豪杰’而言**也**。”

『金瓶梅詞話』は、文語体を用いる場合或いは直接文言文を引用する場合でも、自然な白話の場合でも、「也」を使うことができる。例を見てみよう。

(56)四皓荅曰:“太子,乃守成之主**也**。”(001/02b/03)

(57)極口稱羨誇道:“誠乃勝蓬瀛**也**!”(036/04b/09)

(58)那伯爵嚷道:“樂殺我老太婆**也**!”(054/07a/10)

(59)口中喃喃吶吶說道:“小淫婦兒,你達達今日醉了,收拾鋪我睡**也**。”(079/08a/11 ～ 08b/01)

例(56)、(57)は文言的で、例(58)、(59)は自然な白話の形である。ここで一応例(53)、(54)にある「也」を「也$_1$」と呼び、例(58)、(59)にある「也」を「也$_2$」と呼ぶ。『金瓶梅詞話』における「也」を検討すると、「也$_1$」と「也$_2$」が相補分布呈していると言えることが分かる。「也$_1$」は正式な発話で用いられ、「也$_2$」は非正式な発話で用いられる。もし「也$_1$」が非正式な発話で使われれば、それは直接文言文を引用しているのである。例を見てみよう。

(60)只是“人而無信,不知其可也”。那孔聖人說的話,怎麽違得?如今**也**由不得你。(055/11a/11 ～ 11b/01)

正式な発話とは、主に官界交際、上奏文などを含む。そのような状況で、「也$_1$」を使うことができる。例を見てみよう。

(61)不可一日使之留于世**也**!(018/03b/08)

(62)貼刑副千戸西門慶,才幹有爲,莫偉素著,家称殷實,而在任不貪,國事克勤,而臺工有績,翌神運而分毫不索,司法令而齊民果仰,宜加轉正以掌刑名者**也**。(070/02a/05 ～ 07)

(63)向西門慶致謝說道:“今日初來荊識,既擾盛席,又承厚貺,何以克當,

餘容嵒報不忘**也**！”(049/04b/02 ～ 03)

例(58)は、ある官吏および関係する人物を弾劾する公文書である。例(62)は、地方官吏を審査してから朝廷へ報告したものである。例(63)は、ある高級官員が西門慶の招待を受けたときの発話である。

僧人や医者も知識人だと見なされるため、このような人も「也$_1$」を使うことができる。例を見てみよう。

(64)西門慶到家，看見胡僧在門首，説道：“吾師真乃人中神**也**！”(049/15a/01)

(65)太醫道：“當得晚生返舍卽便送來。沒事的，只要知此症乃不足之症；其兄膈作痛，乃火痛，非外感**也**；其腰脅怪疼，乃血虛，非血滯**也**。吃了藥去，自然逐一好起來。”(054/13a/08 ～ 11)

また、礼節を考慮して丁寧な表現をとる場合、「也$_1$」を使うことができる。たとえば、王三官が西門慶に頼みごとをする際、例(64)のようなセンテンスを使うのである。

(66)則小姪垂死之日，寔有再生之幸**也**！(069/15a/02 ～ 03)

『金瓶梅詞話』では、文語的文脈に沿って、「也$_1$」を使うことができる。このようなセンテンスは正式な発話だと見なされる。たとえば、この作品の冒頭で、関係する歴史を説き起こすために、第1回の第1、2ページおよび第3ページの前半は文言文で書かれ、「也$_1$」が用いられているのである。例を見てみよう。

(67)吳鈎，乃古劒**也**。(001/01a/11)

(68)百官，猶四肢**也**！(017/04b/06 ～ 07)

3.2「也$_1$」と「也$_2$」は同じものである

上述したように、「也$_1$」を含むセンテンスは文言的で、「也$_2$」を含むセンテンスは白話的だと見られる。しかし、この2つの形を比較するならば、その区別は「也」という語気助詞にではなく、語彙面もしくは文法面に現れる。2つの例を見てみよう。

(69)臣聞巡蒐四方省察風俗，乃天子巡狩之事**也**。(048/08b/09 ～ 10)

(70)陝西巡按御史宋盤，就是學士蔡攸之婦兄**也**。(049/01b/07)

例(69)、(70)の最も大きい相違は語彙である。(69)は「乃」を使い、(70)は話し言葉としての「就是」を使う。このような例から見れば、実際に、「也$_1$」と「也$_2$」は同一のものであることが分かる。この視點からするならば、文言文における「也$_1$」の意味もやはり語気を強調するためのものだと言える。もちろん、文言文における「也」の意味および変遷という問題は将来の重大課題であるが、本論文では、近代漢語における「也」の検討に止める。

4 蘭陵方言における「也」

現代の中原官話に属する蘭陵方言において、『金瓶梅詞話』における「也」は引き続き使われている。その用法や意味が近代漢語白話のものと完全に一致している。「也」は伝事語気、伝問語気、伝疑語気のセンテンスに用いられうる。以下に若干その記述と分析を試みよう。

4.1 伝事語気文における「也」

伝事語気文における「也」は、聴き手に向けて新たな事柄もしくは事件を伝える語気を強調する働きをもつ。呼称の直後に置かれた場合、強烈な呼びかけを表現する。例文を見てみよう。

「也」が呼称の直後に置かれた場合：

(71)娘**也**！您呆那漫坡里，叫俺多难过也！

(72)小四**也**！大人的話你怎一点也不听。

(73)書記**也**!恁可得講點良心。

(74)他大叔**也**！你看您说的。

(75)老天爺**也**！快下场雨吧，庄稼都旱死了。

「也」が新たな事柄の伝達を強調する場合：

(76)他是外国人**也**!

(77)清起来$_{早晨}$凉快，咱早走**也**！

(78)咱這里没有，上北京買去**也**！

(79)你不是知道吗？快点说**也**！

(80)你听**也**，谁呆那里哭！

(81)炖牛肉長$_{用}$高圧鍋炖，悶上盖，一霎就熟**也**！

(82)天冷**也**！恁暖和暖和再去。

(83)水少**也**！添行[xɑŋ^{3}]$_{上}$點。

(84)打咱这里上日本，享$_{太}$遠了**也**。得坐几天火车？

「也」が新たな事件の伝達を強調する場合：

(85)他夜里$_{昨天}$走了**也**！

(86)A:将$_{刚才}$烙的饼，你尝尝。

B:我吃飯了**也**！不吃了。

(87)恁達達$_{父親}$赶集買肉去了也！

(88)天冷了**也**！恁暖和暖和再去。

(89)水少了**也**！添行[xɑŋ^{3}]$_{上}$點。

(90)人家呆临沂开饭店，这几年赚不少钱**也**。

(91)出去好几年了，连封信也没来**也**！

(92)您二姨怎吃饭就走**也**！

(93)日头都八丈高了，他還没起$_{起床}$**也**！

(94)煮了半天，肉還没熟**也**！

ここで特に指摘しなければならないのは、新たな事件の伝達を強調するこの類のセンテンスにおいて「也」の前に実現を表す「了」が有る必要がある（否定文は除）ということである。「了也」が結合した場合、2種類の音声的実現方法がある。丁寧に発音するときは[lə^{3} iɛ^{3}/ɛ^{3}]と言い、気を抜いて発音するときは[lɛ^{3}]と言って1つの音節に融合される。

さらに注意すべきは、例(82)、(83)および(88)、(89)で、「也」を含む文にはいずれも形容詞があるが、この2組はその表す意味は同じではないことである。

(82)と(83)は、差し当たって了解している性質もしくは状態を強調しており、それに先だって了解していた内容とは一切関係ないのである。それに対して、(88)と(89)は、すでに了解していた性質もしくは状態から現在への変化を強調しているのである。例えば、水餃子を茹でていて、鍋のふたを開け「水少也」と言う場合、もともと鍋にどのくらい水が有ったのかを知っているわけではなく、この時に水が足りないことに気づいたのである。もし「水少了也」と言ったならば、もともと鍋の水は充分有ったことは分かっていたのだが、しばらく茹でたあと蒸発によって水が足りなくなってしまったのであり、現在了解するものは、それに先立って了解していたものが対比の基礎となっている。

4.2 伝問語気文における「也」

この類のセンテンスにおいては、「也」を用いることによって質問の語気が強化される。例を見てみよう。

(95)他不会说咱这里話，哪里人**也**？

(96)這個不吃，那個不吃，你吃么**也**？

(97)你買多少**也**？

(98)你上哪去了**也**？

(99)我去了，那里怎没人**也**？

(100)進来也不打声招呼，你是誰**也**？

(101)走半天了，還没到。還有多遠**也**？

4.3 伝疑語気文における「也」

伝疑語気を表す場合、「也」を用いると発話者が立証されることに疑いを抱いていることが強調される。例えば、

(102)听口音，您是山東人**也**？

(103)他不愿意来，待是想住那里**也**？

(104)她嘴上说得怪好听，心里不是怎样想的**也**？

(105)她趕明児家走**也**？

選択疑問文に用いられる場合、主な形式は「X也不X」、「X也没X」。例を挙げてみよう。

(106)你看**也**不看？

(107)您买的洋柿子忒贵了，你说你会买**也**不会买？

(108)咱買豬**也**不買？

(109)他三叔还赶集**也**不赶？

(110)人家都割完了。您家赶明儿割麦**也**不割麦？

(111)我的臉上黑**也**不黑？

(112)酒都筛了半天了，还热**也**不热？

(113)都快过年了，他大娘，俺大哥家来**也**没家来？

(114)叫你打点酱油子来，你打**也**没打？

(115)天都怎晚了，您吃饭**也**没吃饭？

すでに述べたように、この種の形式は実際には2つのセンテンスから成っている。蘭陵方言では、丁寧し発音するとき、この種の形式の「也」はしっかりと音声化される。しかし、気を抜いて発音するときは、「也」は脱落し「X不X」と音声化される。このこともこの種の形式が実際には「X不X」の原形であることの証左となろう。さらに、疑問を表す「X不X」から、「也」の痕跡を見出すことすらできるのである。すなわち、最初の「X」中の最後の音節に見られる変調形式にその痕跡が留められており、軽声音節「也」が条件となった変調と考えられるのである(孟子敏2000)。例えば、例(106)や(108)、(114)、(115)は、「也」が脱落した後の疑問を表すこの種の形式なのである。

(116)你看[$k^h\tilde{a}^{31-53}$]不看？

(117)咱買豬[pfu^{13-31}]不買？

(118)叫你打点酱油子来，你打[ta^{44-13}]没打？

(119)天都怎晚了，您吃饭[$f\tilde{a}^{31-53}$]没吃饭？

もし「X不X」がショートフレーズとして文中の文成分となる場合には、そ

のような変調現象は見られない。例えば。

(120)你白管我看不看[k^ha^{31} pu^3 k^ha^{31}]，你看就是了。

とりわけ興味深いのは、「X也不X」および「X也没X」の「也」が脱落した後、「X不X」あるい「X没X」は伝疑語気を表すこととなることである。そしてこのような伝疑語気を強調しようとするときは、またしても「X不X」あるいは「X没X」の後に「也」が添えられうるのである。例(106)～(115)はそれぞれその例と言えよう。

(121)你看不看**也**？

(122)您买的洋柿子忒贵了，你说你会买不会买**也**？

(123)咱買豬不買**也**？

(124)他三叔还赶集不赶**也**？

(125)人家都割完了。您家赶明儿割麦不割麦**也**？

(126)我的臉上黑不黑**也**？

(127)酒都筛了半天了，还热不热**也**？

(128)都快过年了，他大娘，俺大哥家来没家来**也**？

(129)叫你打点酱油子来，你打没打**也**？

(130)天都怎晚了，您吃饭没吃饭**也**？

『金瓶梅詞話』において、この「也」を含まれるセンテンスのパタンは見られないが、これは蘭陵方言で新たな変化を起こったといえるだろう。

5『金瓶梅詞話』における「呀」

『金瓶梅詞話』では、「呀」という語気助詞が用いられており、全篇で18回「呀」が文末語気助詞として使われている。例を見てみよう。

(131)那婆子便向婦人道："好**呀**，好**呀**！我請你來做衣裳，不曾交你偷漢子。"(004/02b/02～03)

(132)武大哎了一聲，説道："大嫂，吃下這藥去，肚裏倒疼起來。苦**呀**，苦**呀**！倒當不得了。"(005/08a/07～08)

(133)那月娘笑嘻嘻也倒身還下禮去，説道：“你喜呀！”(041/08a/09 ～ 10)

(134)我聞得說哥家中定了親事，你老人家喜呀！(047/06a/09 ～ 10)

(135)金蓮看見，笑道：“我的兒，今日好呀！不等你娘來就上床了。”(051/11b/05 ～ 06)

(136)伯爵道：“好人呀！”(054/01b/03)

(137)伯爵道：“好呀！拿過來我正要嚐嚐。”(067/05b/06 ～ 07)

「也」と比べると、かなり少数ではあるが用いられるようになったのである。「也」は旧来の形で、「呀」は新しい形である。この「也」と「呀」が併用されている状況から考えれば、中原官話は北京方言から影響を受けて、「呀」という語気助詞を使い始めたのであると考えられる。当時北京方言はすでに威信方言としての地位を確立していたから、中原官話に対して影響を与えたのは当然のことである。

蘭陵方言では、語気助詞「也」と「呀」はいずれも引き続き使われる。「也」の音声形式は[iɛ^{3}]あるいは[ɛ^{3}]であり、「呀」の音声形式は［ia^{3}］あるいは［a^{3}］である。それぞれ2種の音声形式はいずれも自由変種である。「也」の使用法は近代漢語白話の「也」と完全に一致している。「呀」の用法および機能は「也」と同様である。位層言語学の観點からするならば、「呀」は新しい形式であり「也」と同一の語であるが、「也」とは音韻形式の位層を異にするものであるということとなる。両者の関係は以下の如く示すことができよう。

位層Ⅰ＝ia/a ：呀

位層Ⅱ＝iɛ/ɛ ：也

このことからみれば、この位層関係がどのように成立したのかが分かる。もちろん、『金瓶梅詞話』における「呀」が他方言から伝わってきたものであるかどうかという問題は改めて検討する必要があるのであるが。

参考文献：

太田辰夫 1958『中国語歴史文法』，江南書院，東京。

孫錫信 1999『近代漢語語气詞』，語文出版社，北京。

梅　節 1993『金瓶梅詞話』，梅節校訂，陳昭 黄林注釈，梦梅館，香港。

孟子敏 2003『センテンス末尾の語気助詞“也”の変遷』，日本中国語学会五十三回全国大会予稿集，東京。

孟子敏 2005『近代漢語句末語気助詞“也”的意義及其流変』，『語言教学与研究』，第3期，北京。

孟子敏 2007『平邑方言における近代漢語語気助詞「也」の変遷について』，『言語文化研究』，第26巻第2号，松山大学，松山。

劉勲寧 1985『現代漢語句尾“了”的来源』，『方言』，第2期，北京。

劉勲寧 1990『現代漢語句尾“了”的語法意义及其与詞尾“了”的聯係』，『世界漢語教学』，第2期，北京。

羅　驥 1994『北宋句尾語气詞“也”研究』，『古漢語研究』，第3期，長沙。

付録：蘭陵方言的音韻システム

(1)声母

計27個（零声母を含まない）。

p 幫傍	p^h 趴旁	m 馬忙			
pf 豬庄	pf^h 出床			f 發雙	v 如軟
tθ 髒自	$tθ^h$ 曹菜			θ 散嫂	
t 刀道	t^h 天田	n 拿奴	l 來綠		
tʃ 照直	$tʃ^h$ 昌柴			ʃ 沙生	ʒ 然人
			ɭ 兒二		
tɕ 精經組	$tɕ^h$ 牽錢粗	ȵ 年女		ɕ 先縣俗	
k 公共	k^h 康狂			x 汗話	ɣ 安餓

(2)韻母

計39個([yɛ] 、[iei]という変化した韻を含む)。

ʅ 資寺	i 皮飛	u 補毒綠	y 舉醋
ɿ 知石			
ə 婆革說	iə 貼姐	uə 朵國	yə 月藥坐
ɛ 擺改拽	iɛ 街鞋	uɛ 怪外	yɛ 圈两圈園花园
a 八他抓	ia 家匣	ua 瓜瓦	

ɔ 包趙	iɔ 表教		
əi 德黑吹	iəi 巾繫名词	uəi 腿婚	yəi 堆碎
əu 頭狗	iəu 六就		
ã 班喊穿	ia 鞭咸	uã 短寛	yã 勸酸
ə̃ 本麥春	iə̃ 貧親	uə̃ 蹲滚	yə̃ 軍孫
ɑŋ 綁綱雙	iɑŋ 亮姜	uɑŋ 光荒	
əŋ 碰坑中	iəŋ 病青		
		uŋ 東紅	yuŋ 窮松

(3)声调

計4個。

陰平[13]　邉磚三燈抽江村婚姻丨筆麥出擦禿辣尺七骨月

陽平[53]　邉磚三燈抽江村婚姻丨筆麥出擦禿辣尺七骨月

上声[44]　比馬準草懂冷展緊古五丨讀國國家

去声[31]　變面撞放淡愣正醉厚暗丨物祝陸

また、軽声もある。その前にある音節の声調によって、音価が異なる。ここで、[3]で表示する。例を見てみよう。

轻声[3]　巴結巴們的着了過吧

（本論文は松山大学2006年度特別研究助成の成果である。）